

走行車内での凶行・刺傷事件！

- ・世田谷区の小田急線車内刺傷事件
- ・東海道新幹線車内ガソリンによる焼身自殺
- ・調布市内の京王線車内刺傷事件
- ・リニア中央新幹線瀬戸トンネル工事現場で死傷事故
- ・九州新幹線放火未遂事件
- ・東海道新幹線の不審行為

新幹線の乗客・乗務員を守れ！

防犯カメラを多数設置しても乗客・乗務員を守れない！

新幹線車内に防犯カメラを設置していますが、この間の車内における刺傷事件の犯人は、「誰でもいいから殺したい」という異常者である。それに対して、いままでのマニュアルでは全く異常者に対するの防御対策とはならない。その異常者に対して、どれだけこちらも強い意志を持って防御していくかということが必要です。

命の関わる状況下ではマニュアルは通じない！

乗務員は、異常者が向かってきたら、ナイフ・ガソリンなどから、逃げても追いかけてきたりすると盾・刺叉・防刃チョッキでは防御できない。異常者と直接対応しなければならない場面が起きた場合等は、どう対応すれば良いのか？命がかかわる状況下ではマニュアルはまったく通用しないのではないか。

目の前で切りつけ、火災、命の危険が迫るなかで 行き場がない状況下でのドア扱いはどうすべきか？

命に関わる危険が迫っている状況で、今までのマニュアルでいいのか、窓も開かない、ドアも開かない。その中で、人を殺したい異常者と火が迫る中で、人は命を守りたいとパニックになり、その場から逃げたい。そのためドアコックを開けて車外に出る行動をとるのではないか。その時、対向列車は？

防犯カメラは、事件の後の検証や軽犯罪には予防効果はあるかと思いますが、殺害したいと思う異常者には効果はありません。

異常者による命に関わる状況での避難マニュアルをあらためて検証し、統一したマニュアルを定めるべきです。緊急事態時の現場乗務員の瞬時の判断・行動・決断が命を守ることになるのではないか！

会社は、命を守る避難マニュアルを定めるべきである！